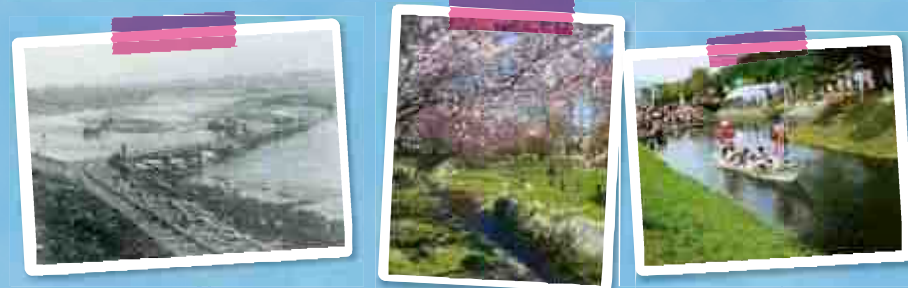




川とともに歩んできた人々の歴史を振り返る

さっぽろの川と人々の暮らし



川の変遷と利用の歴史

私たちができること

身近な川の歴史や特徴

川の名称の由来



人と川の歴史を
知ってみよう！

ウォータークラウン王子

しずくちゃん

札幌市



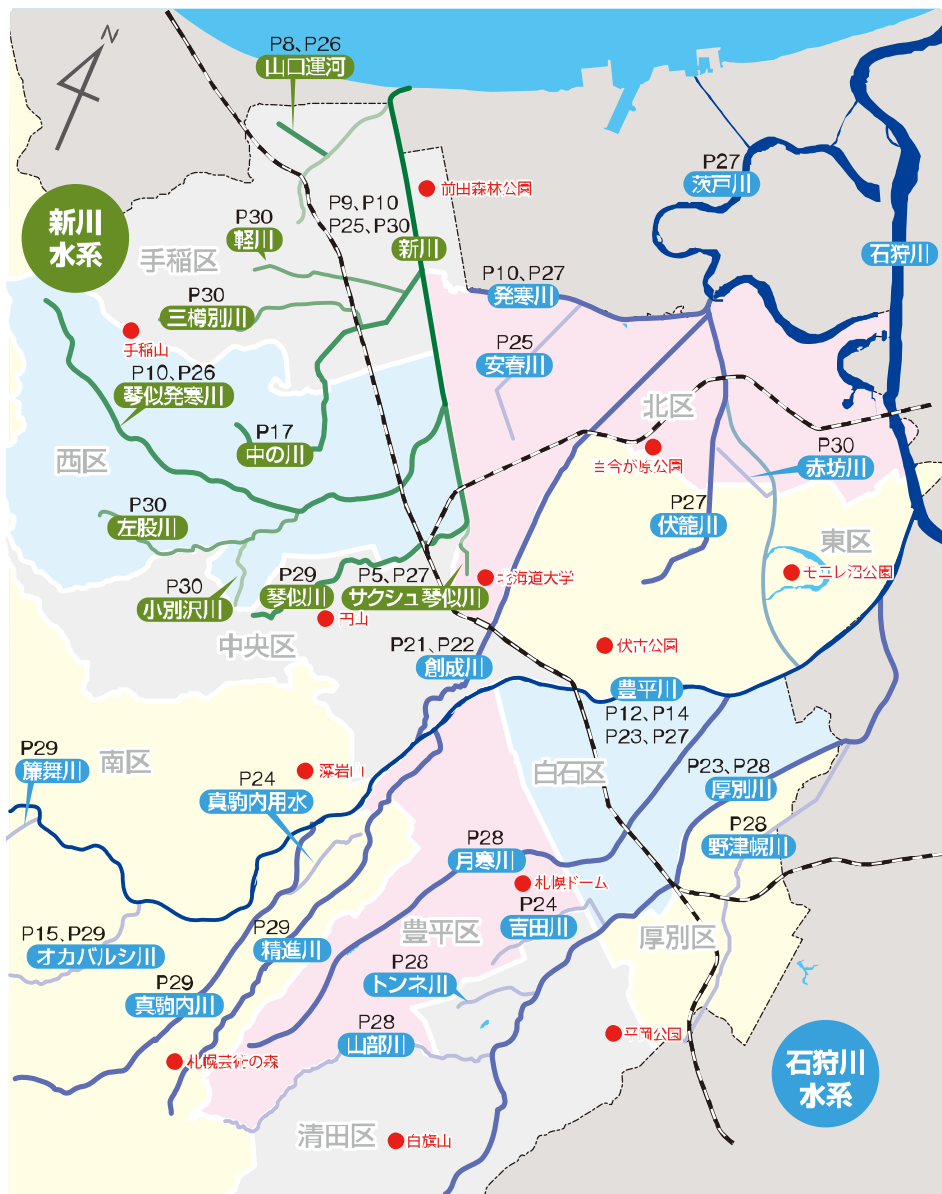
さっぽろ市
C1-L02-19-1516
31-4-24

さっぽろの川と人々の暮らし

札幌市下水道河川局 事業推進部 河川事業課
〒062-8570 札幌市豊平区豊平6条3丁目2番1号
Tel.011-818-3414
<http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/kasen/>



本誌掲載川マップ



※頁数のついている川は、本誌に掲載されています。

さっぽろの 川と人々の暮らし CONTENTS

1 本誌掲載川マップ

3 川の変遷と利用の歴史

- わき水がいっぱい
- 遠く離れた場所にも
- 地域住民の移動手段
- 運ぶ
- 湿地帯を救済する
- 洪水との闘い
- 治水事業の始まり
- 浄水場の誕生
- 安定した水の供給
- 水力発電への利用
- きれいな水を戻す
- 記録的な豪雨
- 近年の水害対策
- 自然の姿へ

19 私たちができること

21 身近な川の歴史や特徴

- 創成川
- 豊平川/厚別川/吉田川/真駒内用水
- 新川/安春川/琴似発寒川/山口運河

27 川の名称の由来

〈参考文献〉

石狩川流域発展の礎・治水/石狩川舟運史/川を「つくる」から川と「共に生きる」へ/札幌のアイヌ地名を尋ねて/さっぽろのおいしい水事典/北海道の川の名

〈表紙写真協力〉

北海道開発局/北海道開発局 豊平川ダム統合管理事務所/「石狩川流域発展の礎・治水」より

〔本誌に関するお問い合わせ〕

札幌市下水道河川局 事業推進部 河川事業課
〒062-8570 札幌市豊平区豊平6条3丁目2番1号
TEL.011-818-3414
<http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/kasen/>



川の変遷と利用の歴史

「川」と聞いて、何を思い浮かべますか？

昔は、川は飲み水を得る場であり、洗濯などをする生活の場でした。今私たちは、各家庭の水道から出る水を使い、直接川の水を使うことは減りました。しかしこの水道水も、川や海などの自然を循環して、私たちのところへ届いているのです。

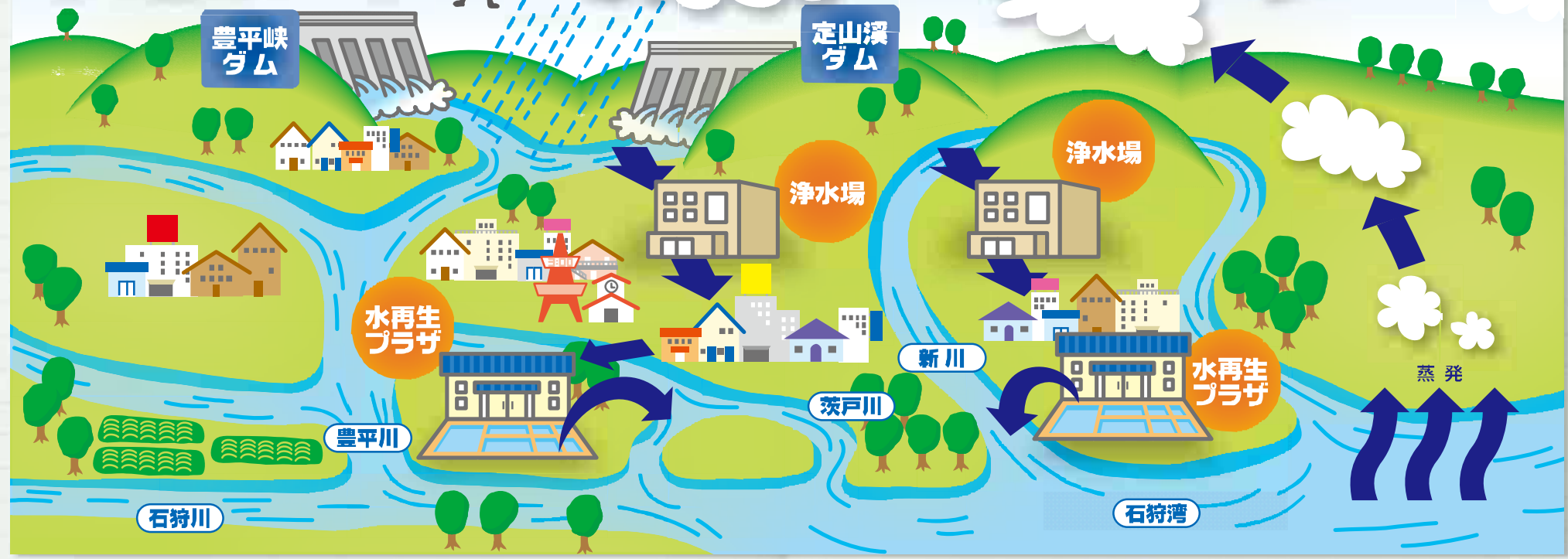
普段当たり前のように利用している水道水や電気、川にかかる橋や舗装された川沿いの遊歩道。現在のような状態に至るまで、長い年月とたくさんの人の努力が積み重ねられてきました。私たちの生活と川が、どのように関わり合いながら変化をとげてきたのか、歴史をたどって見ていきましょう。

昔の川の生活

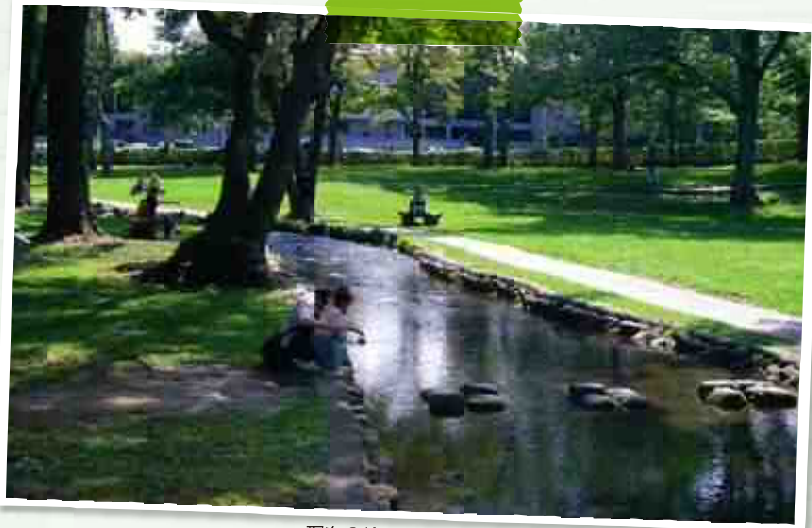


どうして私たちの生活に、川が重要だったんだろう？

水の循環のようす



川の変遷と利用の歴史



現在のサクシヨ琴似川の姿 昔はメムを水源として流れていた

わき水がいっぱい

昔の札幌はアイヌ語で「メム」と呼ばれるわき水がたくさんありました。メムを水源としてたくさんの小川が流れており、サケがのぼってきていたという記録も残っています。サケを貴重な食料としていたアイヌの人たちは、メムの周りに集落を作り、生活の場にしていました。

遠く離れた場所にも

アイヌの人たちは食料確保の場や飲み水としての利用の他に、交通路としても川を活用していました。巨大な木をくりぬいた丸木舟を使い、遠く離れた場所に移動する際には、複数の川を利用していました。

例えば、現在の石狩市から太平洋側の苫小牧市方面に出るために

舟で石狩川から江別市まで移動

江別市から千歳川に入り、千歳市まで南下

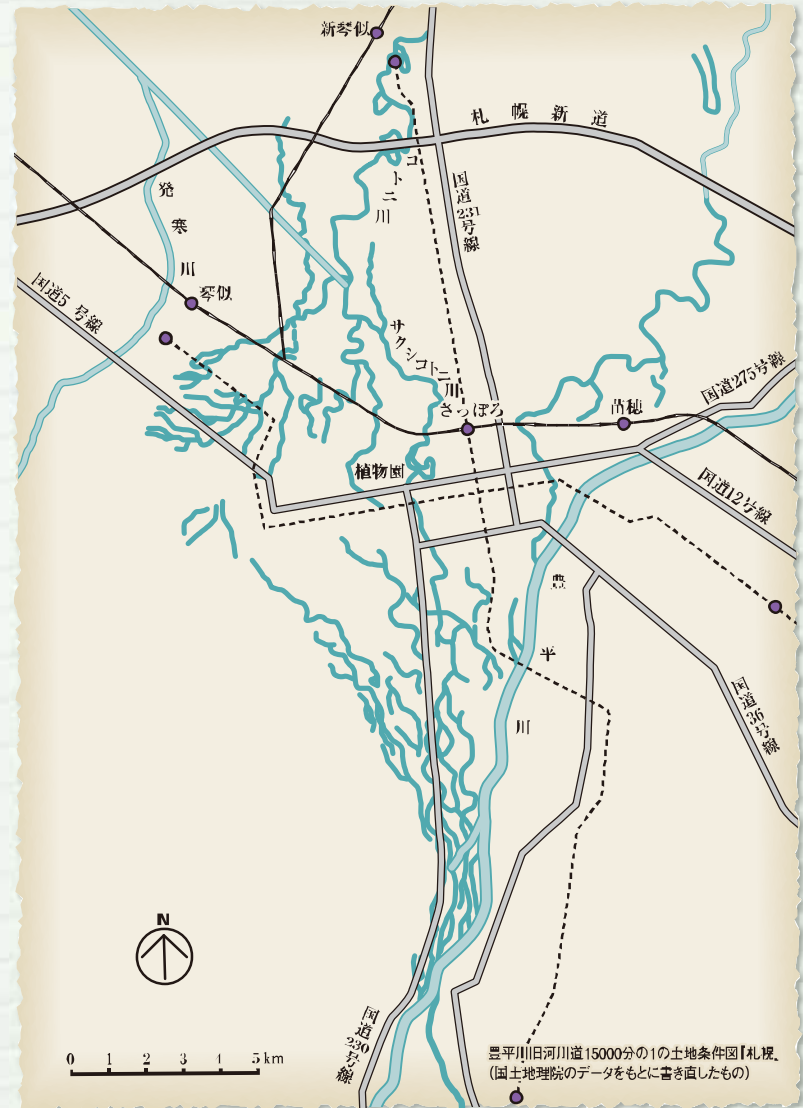
千歳市から陸地を歩き、美々川から勇払川を經由して太平洋岸に到着

このように川を乗り継ぎ、陸地移動も交えて移動していたと言われています。

様々な川を
乗りこなして
いたんだね。



アイヌの人たちにとって川は、生活と密接につながっていたため、とても大切な存在でした。そのため、川の様子や特徴・川と暮らしとの関わり方などを表したアイヌ語の地名が、北海道では多く残っています。



豊平川旧河道15000分の1の土地条件図[札幌] (国土地理院のデータをもとに書き直したもの)

昔は今よりずっとたくさんの川があった (地図作成年度：不明)

地域住民の移動手段

北海道を探検に来た和人たちも、アイヌの人たちの力を借りて川を遡(さかのぼ)り、各地を調査しました。内陸路が発達していなかった当時、丸木舟を利用できる石狩川や豊平川などは貴重な交通路でした。

明治に入ると、水上交通機関として帆船(はんせん)や汽船も使われるようになりました。また橋のないところでは川の兩岸を行き来する「渡船(とせん)」が活躍し、川が凍ってしまう冬の時期は、人工的に厚い氷を張らせた「氷橋(こおりばし)」が渡船の代役を務めました。

当時、橋をかけても洪水などですぐ流されてしまっていた。



石狩川を運行する帆船(「石狩川流域発展の礎・治水」より)



氷橋を渡る人々(「石狩川流域発展の礎・治水」より)

寒い地域
ならではの
工夫だね!



運ぶ

鉄道や道路が普及していなかった当時、米やみそ・しょう油などの農産物や生活物資を輸送する方法は、舟で川を往来することでした。

しゅうん 舟運とは?
舟による交通や物資を輸送する方法。

次第に札幌に人が増え始め、たくさんの物資が運ばれるようになりました。こうした需要に対応するために、新たに水路が開削されるようになりました。

舟運やかんがい、用水、排水のために設けた人口の水路を運河といい、創成川や山口運河がこれにあたります。



新水路掘削(くっさく)作業の様子(「石狩川流域発展の礎・治水」より)



当時の様子を再現した山口運河での舟運

湿地帯を救済する

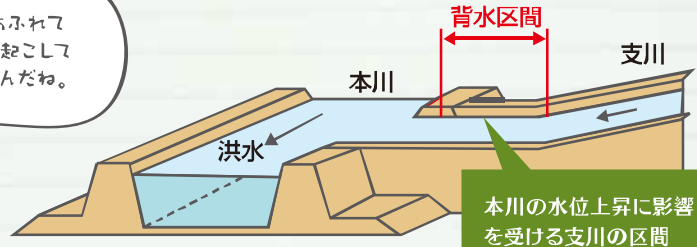
開拓当時の発寒川(現在の琴似発寒川と発寒川)と琴似川は、石狩川の背水の影響で何度も氾濫(はらん)を起こしていました。また札幌の北部は湿地帯だったため、農業をするには排水が必要でした。



はいすい
背水とは？

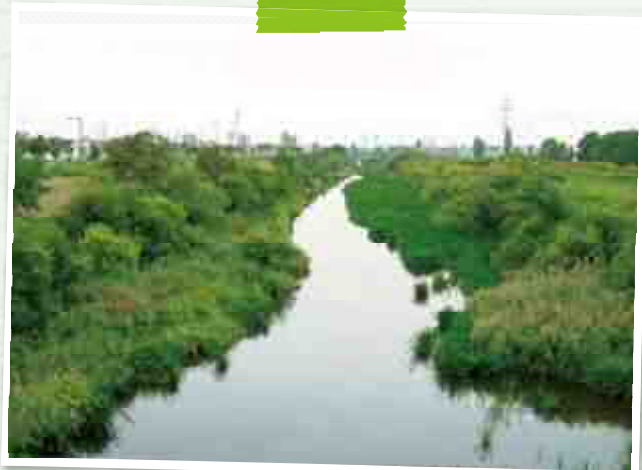
川の本流と支流で、洪水時に本流の水位が高いと、合流地点で支流の水が流れづらくなり、支流の水位も上昇すること。

水があふれて
氾濫を起こして
しまっただね。



そこで物資の運送の利用も兼ねて、1886年(明治19年)から1887年(明治20年)にかけ「新川」の開削が始まりました。

新川の誕生により、札幌北部の洪水被害は軽減されました。しかし、今度は新川沿いが洪水の常習地となり、排水が困難となりました。しばらくの間そのまま放置されていたが、その後改修を重ねて徐々に農地、住宅地に適する土地に変わっていきました。



おだやかに流れる新川

たくさんの
努力があって、
今の新川があるんだ。



新川の誕生により、発寒川は琴似発寒川と二つに分断された
(地図作成年度：明治29年(1896年))

洪水との闘い

明治～大正時代は、大雨や台風が直撃するたびに洪水被害が出ていました。特に明治時代は、洪水が起こるたび開墾(かいこん)した土地は水浸しになり、水が退いた後の畑には泥が多く残って農作物は全滅していました。



1913年(大正2年) 札幌の洪水の様子(「石狩川流域発展の礎・治水」より)

- 1898年(明治31年) 4月:雪解けによる洪水。
9月:台風の影響を受け、石狩川流域で死者112人を出す。
離村・離農する者が相次ぎ、北海道開拓に大きな打撃を与えた。
- 1904年(明治37年) 6月～7月:雷雨や連続降雨により石狩川・諸河川が氾濫。
大洪水となる。
- 1913年(大正2年) 8月:暴風雨により豊平川堤防が決壊(けっかい)。
市街地の中心部が浸水、豊平橋は流失。

治水事業の始まり

1898年(明治31年)の洪水を契機として、石狩川流域では本格的な治水事業がスタートしました。それでもなお発生する洪水と闘いながら、試行錯誤を繰り返し、人々が安心して暮らせる生活を目指したのです。

ちずい 治水とは?

水害を防ぐためや、水運・農業用水の便のために川を整備すること。



工事が完了した豊平川の護岸(「石狩川流域発展の礎・治水」より)



護岸工事中の豊平川
(「石狩川流域発展の礎・治水」より)

浄水場の誕生

昭和に入ると札幌の都市化や人口の増加は進み、それに伴い水道の必要性が高まってきました。1937年(昭和12年)には札幌市では第1号となる「藻岩浄水場」ができ、札幌水道が創設されました。

それまでは井戸などで地下水をくみあげていた。

浄水場とは?

川からの水をきれいにして、安全に飲める水に処理をする施設のこと。札幌市には「藻岩浄水場」の他にも、「定山溪浄水場」・「宮町浄水場」・「西野浄水場」・「白川浄水場」がつくられた。



創設時の藻岩浄水場の施設は、現在は水道記念館となっている

みんなが安心して飲めるようになったんだ。



安定した水の供給

1960年(昭和35年)には札幌市の人口が50万人を超え、水の需要や電力の需要が急激に高まりました。そこで、将来にわたって十分な水を確保すること、水力発電による電力の供給をするために、「豊平峡ダム」が建設されることになりました。

その後も人口は増え続け、再び水の需要が増えました。また宅地化が進んだことで、洪水などの安全度の低下が心配されたことから、1989年(平成元年)に「定山溪ダム」が建設されました。

豊平峡ダムや定山溪ダムのように、水道水供給や洪水調節・発電利用など様々な目的を持つダムのことを**多目的ダム**という。



豊平峡ダム(北海道開発局 豊平川ダム統合管理事務所より)



定山溪ダム(北海道開発局 豊平川ダム統合管理事務所より)

私たちの生活を
いろんな面で
支えているんだ。



ダムの役割

洪水の防止

大雨が降った時や
雪解けの時期

- 放出量を増やさず、水をダムに留める
- タムより下の川の水が増えるのを防ぐ

水の補給

雨が少ないときや
渇水期

- タムに溜めていた水を川に流す
- 川の流量や水道用水を確保する

自然の状態では過不足する川の水量を、ダムからの供給で適切に保ちます。

水力発電への利用

川の水は水力発電にも利用されています。

豊平川流域には、豊平峡・定山溪・砥山・藻岩・小樽内の5カ所の水力発電所があり、最大出力を合わせると、81,170kWもの電力を供給しています。発電に使用した水は再び豊平川に戻され、水道用水など多目的に利用されています。



水力発電とは？

水が高いところから低いところに流れ落ちる力を利用して、タービンを回し発電する方法。

きれいな水に戻す

昭和時代は急速に産業が発展したため、川の水質や衛生環境は悪化し始めました。

そこで使用した水をキレイにして海や川に戻すためや、雨水などをうまく排水するために、**下水道の重要性**が高まってきました。

昭和40年代には市内で7カ所の下水処理場の運転を開始。水質の改善を進めた。



これにより、水質の悪化でサケがのぼらなくなっていた豊平川に、1979年(昭和54年)には25年ぶりにサケが帰ってきた。

自然を大事にしないと、
自分たちに
返ってくるんだね。



サケが戻ってきた豊平川

記録的な豪雨

治水事業が順調に進んでいるように見えた1981年(昭和56年)8月には、これまでの努力をあざ笑うかのような大洪水が、同じ月に2回も発生しました。



北区屯田付近の様子(「石狩川流域発展の礎・治水」より)

8月3日~6日

気象原因:低気圧・前線・台風12号

「50年に1度の大雨」と呼ばれたほどの雨が降り、川は氾濫し、堤防の決壊が起きました。作物被害は水害史上最大で、小麦や稲に大きな打撃を与えました。これに伴う品薄状態や、価格の高騰なども懸念されました。

石狩・空知管内の被害

死者2名、被害家屋22,500戸
田畑流失132.9ha、田畑被害73,824ha

この異常事態で急ぎ、完成直前だった石狩放水路が緊急通水されることになった。

8月21日~23日

気象原因:前線・台風15号

札幌では23日の日降雨量が207mmに達し、気象台創設以来の最大値を記録しました。国鉄(現在のJR)などの交通網は各地で寸断され、土砂災害も発生しました。

石狩・空知管内の被害

死者1名、被害家屋12,200戸



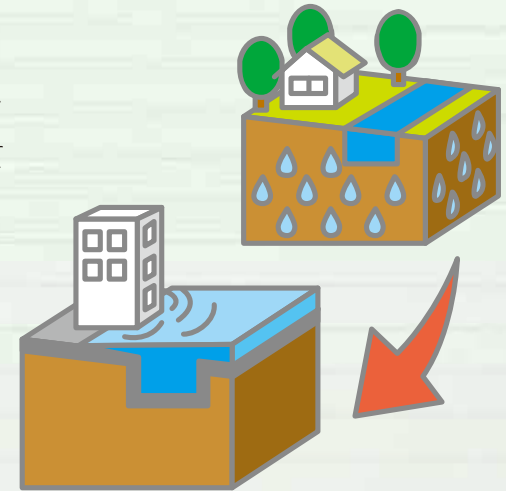
南区オカバルシ川の浸食状況(北海道開発局より)

近年の水害対策

都市化が進み地面をアスファルトで覆うようになると、地下に雨水が浸透しづらくなり、街中に排水しきれない水があふれかえる「内水氾濫(ないすいはんらん)」が増えました。

ないすいはんらん 内水氾濫とは?

排水処理が間に合わず、道路などに水があふれること。
これに対し、川の堤防が決壊して街に水があふれることを「外水氾濫(がいすいはんらん)」という。



治水事業が行き渡った近年でも、「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的な大雨により、街中に排水しきれない雨水があふれる被害が増えている。

こうした水害を軽減させるために、札幌市では一時的に雨水や川の水を貯めておく施設を設置しています。

うすいちよりゆうち 雨水貯留池

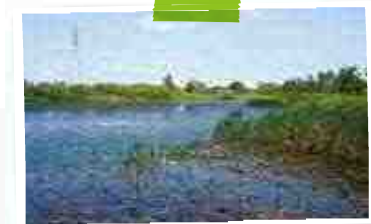
雨水を一時的に貯め、河川へ流れる雨水の量を抑制するもの。専用の施設の他に、グラウンドや駐車場と兼用となっているものもある。



雨水貯留池

ゆうすいち 遊水地

豪雨により河川の水位が上昇した時、川の水を一部流し、下流部の負担を減らすもの。自然の地形を生かしたものや、人工的に作られたものがある。



東屯田川遊水地

自然の姿へ

水害による被害を減らすために、蛇行の多い川をまっすぐにする工事や、洪水をすみやかに流す工事などを施してきました。また需要に応えるために、水道用水や電力を確保できるよう、川を利用してきました。こうして私たちは、安全に・快適に生活ができるようになりました。

こうしたなか、川本来の姿を守り、そこにすむ生物や環境へ配慮する「多自然川づくり」の考えが重要視されるようになりました。

地域の暮らしや歴史・文化との調和も考慮し、これからは「川と人が共に生きる道」を目指します。

中の川(札幌市西区～手稲区)

急流のため上流部に落差工という段差を設置していたが、それによりサクラマスなどの遡上(そじょう)を妨げていた。そこで全ての落差工に魚道を設置し、魚がのぼれるようにした。また魚がすみやすいよう、川の中に石を置くなどして川の流れに変化をつけた。



(施工前)



(施工後)
再びサクラマスの遡上と産卵が確認できるようになった



昔の姿に戻す
ということではなく、
上手に付き合っていく
方法を探したんだ。

これからは、
自然のことも
考えなくちゃね。



札幌というまちがここまで大きく成長できたのは、私たちの生活にいつの時代も川の恵みがあったからです。時にはその大き過ぎる力に悩み、苦しみを重ねてきました。また、受けた恩恵をあだで返すようなこともしてきました。

自然のものは自然のままに。しかしそのままの状態だと、私たちの生活が危くなる時があります。人と川、そしてそこに生きる動物たちや植物たちと、お互いに寄り添い合いながら暮らしていくことが大切なのです。



じゃあ次は、
もっと具体的に
見てみよう。



寄り添い合うって、
どうしたら
いいのかな？



私たちができること

私たちが川と生活のためにできることは、身近なところにたくさんあります。ほんの少し意識してみるだけで、美しい川や私たちの生活を守ることにつながるのです。

汚れた水をできるだけ流さない

家庭から出る水を汚さない

- 食器を洗う時や洗濯をする時、たくさん洗剤を使わない。
- 食器を洗う前に、食器の汚れを紙などでふく。
- 水に溶けない紙やゴミを下水道に流さない。
- 使用済みの油を排水口に捨てずに、凝固剤で固めたり、紙や布に染み込ませて燃えるゴミに捨てる。また、市内の使用済み油の回収拠点に出すことで、リサイクルすることができます。



川を自分達できれいに

自らの手で、川を美しくする。

札幌市河川美化活動支援制度とは？

札幌市の維持管理河川で清掃・草刈・花壇の手入れなどの美化活動を行う町内会・河川愛護団体・企業・NPO等の団体に対し、ゴミ袋の支給やゴミの回収などの支援をする制度。

● 支援の内容

物品の配布

ゴミ袋、軍手、タオルなどを配布。

草・ゴミ等の回収

集めたゴミ等は札幌市で回収。

保険の加入

加入は札幌市で行う。(活動中のケガ・事故に一定の補償を行う)

※補償には参加者名簿の提出が必要。



創成川清掃活動の様子

私たちができること

雨と上手につき合う

家庭での工夫次第で、治水につながる。

- 庭や花壇を作る 雨水をため、地上にあふれるのを防ぐ。
- 大雨の時、たくさん水を流さない 家庭排水を減らすことで、川へ流れ出る量を減らす。
- 工夫した住まいづくり 高床式建築、雨水が浸透・貯留するつくりを取り入れる。

雨が止むまで、お風呂の水は捨てず、洗濯はしないでござう。



いざという時のために

日ごろから災害時に備え、必要な物を用意し、避難場所・避難経路を確認しておくことが大切。

非常時持ち出し品 (例)

- 食料、飲料水3日分
- 懐中電灯、ロープ、救急セット
- 携帯ラジオ
- 現金や貴重品 など

避難所へ避難する際の注意点

- 高い道路を選ぶ。
- 側溝や水路への転落に気をつける。
- 川沿いの道路や橋は危険なので避ける。
- 山沿いの道は土砂災害に気をつける。

洪水ハザードマップ

水害が起きた時の避難場所は「洪水ハザードマップ」で確認でき、避難注意の必要な箇所や水害に関連した避難に役立つ情報も記載されている。

被害にあうのを未然に防ぐことも大事だよ。



札幌市の洪水ハザードマップの閲覧について

ホームページにより閲覧可能

URL http://www.city.sapporo.jp/kikikanri/higoro/fuusui/ssh_map.html

マップ・避難等に関することは

〈札幌市危機管理対策室〉

住所:札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎 電話:011-211-3062

身近な川の歴史や特徴

ここでは、私たちの身近にある川の歴史や特徴をご紹介します。それぞれの川が持つ個性や地域住民との関係など、いつの時代も私たちの生活に溶け込んでいく様子が見えてきます。

そうせいがわ

【創成川】

創成川は、中島公園の南側付近にある取水口から豊平川の水を引き込み、市街地を通り抜けて、札幌市と石狩市の境界付近で伏龍川に合流するまでの長さ約14kmの川です。

およそ150年前から農業用水や生活用水の供給を目的として開削が行われました。その後、次第に使われ方や流路を変え現在の姿になりました。

開削・流路の歴史

- 1866年(慶応2年):大友堀の開削
幕臣の大友亀太郎が、開拓者の飲料水・田畑の用水路・排水路を目的に開削。
- 1870年(明治3年):寺尾堀、吉田堀の開削
寺尾秀次郎が北へ寺尾堀を、吉田茂八が南へ吉田堀をつくり水路を延ばす。
- 1874年(明治7年)
豊平川からの取水口に鴨々水門を設置した際、名前を創成川と命名する。
- 1880年(明治13年)
札幌まで鉄道が通ると、水運は廃止された。
- 1886年(明治19年)
その後も延長を続け、茨戸までつなげる。新たに開削された部分を、当時「琴似新川」と呼んだ。
- 1925年(大正14年)
北6条以東の旧大友堀は使われなくなり、埋め立てられる。



1871年(明治4年)頃の
大友堀 (北海道大学附属図書館所蔵)



1935年(昭和10年)頃の札幌市街北部
(『写真集北大百年』より)

創成川公園

産業の発展とともに人々が訪れにくい空間になってしまっていた創成川に、再び潤いと憩いの空間を取り戻すため2011年(平成23年)に創成川公園を整備しました。

南4条から北1条まで続く創成川公園には、川に近づくことができる階段が設置され、多くの方が水辺を楽しんでいる姿を見ることが出来ます。またライラックや桜など花と緑あふれる豊かな景観があり、狸二条広場ではさまざまなイベントが行われるなど、魅力あふれる水辺空間が形成されています。



公園整備前



創成川公園



狸二条広場のピカガーデン

昔の姿を今に残す～鴨々川～

創成川のうち南7条付近から上流の約2.5kmの区間は鴨々川と呼ばれ、昔の蛇行した河川の姿を今に残しています。

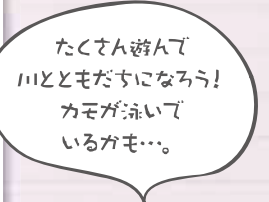
鴨々川が流れる中島公園は水と緑に囲まれ、都心の憩いの場として市民に広く親しまれています。また、その下流はすすきの地区を曲がりくねりながら流れ、そのほとりは歴史や文化を感じさせる景観にあふれています。



中島公園



狸の放流



身近な川の歴史や特徴

とよひらがわ

【豊平川】

現在、札幌市の98%の水道水は豊平川からの取水によるものです。また水力発電などにも利用され、治水・利水の両面で札幌にとって最も重要な川です。サケの遡上する川としても知られ、大都市を流れる川でありながら水のきれいさを証明しています。

両岸には多くの休憩・運動施設、サイクリングロードがあり、多くの人々が日々訪れています。そしてウォーターガーデンには、すべり台やアルキメデスのポンプなどたくさんの遊具があり、夏は多くの子供達でにぎわいます。また花火大会やマラソン大会など様々なイベントも開催され、市民の生活になくてはならない川となっています。



あつべつがわ

【厚別川】

豊平川の支流の中でも最大規模で、札幌で豊平川の次に長い川です。厚別川の上流部分には滝野すずらん丘陵公園があり、自然の四季折々の姿を見せています。また、厚別川の上流にあるアシリベツの滝は市内の中でもとても大きな滝で、日本の滝百選に選ばれています。

清田区内では、厚別川緑地として緑豊かに整備されています。花壇やベンチなどが設けられ、ニジマスやヤマメなどの釣りをして楽しむ人もいます。またパークゴルフ場が数多くつくられており、人々がさわやかな汗を流しています。



よしだがわ

【吉田川】

1891年(明治24年)に、吉田善太郎が厚別川から取水して用水路を完成させたことに始まります。この用水路の完成で米作りが盛んになり、200ha以上もの水田ができました。

現在、北野通から清田通付近までの区間(1,350m)は、水辺散策・自然環境保存・河畔公園のゾーンに分かれた環境整備が行われています。また2008年(平成20年)には、北野通上流160mを地域の人たちの意見を取り入れ作成した「吉田川環境整備計画」に基づき整備を行いました。吉田川にすむ生物の生活環境を守りながら、より川に親しめるようになっています。



まこまないようすい

【真駒内用水】

明治初期の北海道開拓時に、外国人教師エドウィン・ダンの指導を受け、農業用水路として整備されました。その後都市化に伴い、農業用水としての使命がなくなり水路の大部分は埋め立てられました。現在、残った真駒内用水部分は真駒内地区の貴重な水辺空間として、新たな役割を果たしています。真駒内曙公園では、真駒内用水を遊水路として整備し、夏には水遊びをする子供達でにぎわっています。

平成13年度には、札幌らしい都市文化の美しさを目指した取り組みを表彰する「第10回札幌市都市景観賞」を受賞しました。



それぞれの川に、
個性的な特徴や歴史が
あるんだ。

身近な川の歴史や特徴

しんかわ 【新川】

湿地帯だった札幌市北部は、新川の完成により乾いた豊かな土地に生まれ変わることができました。このような経緯から、新川を地域のシンボルにできないかという住民の声が集まり、平成12年に住民達の手で桜並木が完成しました。全長10.5kmとなり、「日本一長い桜並木」と言われています。

毎年桜の開花時期には「新川さくらフェスティバル」が行われ、新川沿線のゴミ拾いやポイ捨て防止の呼びかけ、地域住民の一人が作詞をした「新川さくら並木のうた」が披露される合唱祭が行われています。新川の桜並木は、地域のシンボルという枠を超え、文化発祥につながりました。



やすはるがわ 【安春川】

この地域の水害を防ぐことと、地下水位を下げ、農地として利用するために1890年(明治23年)に開削されました。しかし、周辺の宅地化が進むにつれて水の流れはなくなり、降雨時のみの排水路となってしまいました。そこで、再び安春川に水をとりもどし、人々に親しまれる水辺空間を作り出そうと整備が行われました。

創成川水再生プラザから高度処理水を導水し、せせらぎを復活させ、また両岸には遊歩道を設け、道路とスロープで結びました。親水性の高い環境が整い、地域住民の憩いの場として多くの人たちに親しまれています。

ことにはっさむがわ 【琴似発寒川】

琴似発寒川はもともと発寒川の一部であり、1本のつながった川でした。しかし1887年(明治20年)に新川が開削されると、新川を境に琴似発寒川と発寒川に切り離されました。

現在16の公園や緑地が設けられ、河川敷に降りて水辺を歩いたり、水遊びをすることができます。春には桜の木が両岸に咲き、花見客でにぎわいます。他にも、ヤマメやウグイなどの川魚も多くすんでおり、秋にはサケも遡上し産卵します。

また、琴似発寒川の水は水道水として使用されています。



どの川も、
町の一員としてみんなに
愛されているんだね。



やまくちうんが 【山口運河】

1897年(明治30年)に開通した「花畔(ばんなぐろ)・銭函間運河」の一部で、米や生活物資の舟運や山口地区の排水のためにつくられました。しかし、維持管理の問題や鉄道の発達により、78年で役目を終えました。

その後「まちづくりのシンボルとして守りたい」という地域住民の思いが高まり、憩いの場として生まれ変わりました。現在は毎年秋に「手稲山口運河まつり」が開催され、舟運の様子再現や、運河の歴史を子供たちに伝えています。

また、地域住民による清掃活動や、「山口運河探検ツアー」も実施されるなど、地域に根付いた運河となっています。



川の名称の由来

豊平川（とよひらがわ）【流域：南区、中央区、豊平区、白石区、東区、江別市】

明治以前は「サッポロ・ベツ」（乾く・大きい・川）と呼ばれ、今のように堤防がない頃、川が氾濫し渇水期には大きな砂利河原になっていました。現名は、豊平橋付近の崖が「トイェ・ピラ」（崩れている・崖）と名づけられたことに由来します。

茨戸川（ばらとがわ）【流域：北区、当別町、石狩市】

石狩川下流の捷水路（しょうすいろ）切替によって発寒川下流部分とはところどころ沼形になりながら、石狩川に流れ込んでいました。その沼形のところに「バラ・ト」（広い・沼）があり、そのため発寒川下流にあたる集落を茨戸と呼んでいたことに由来しています。

発寒川（はっさむがわ）【流域：北区、石狩市】

名前の由来は、「ハチャム・ベツ」（サクラドリの川）や「ハッ・サム」（山ぶどうの傍の）という説、「ハン・シャム」（かん木の傍ら）などの説があります。新川の開削以前は琴似発寒川と繋がっており、その全体を発寒川と呼んでいました。

サクシュ琴似川（さくしゅことにがわ）【流域：北区】

「サクシュ」は「浜の方を通る」で、浜はこの場合は豊平川岸のことを示しています。「コトニ」（くぼ地）を流れる川のうち、豊平川の方を流れる川という意味から名づけられました。



伏籠川（ふしこがわ）【流域：東区、北区】

豊平川（札幌川）は、かつて現在の伏籠川の流路をたどって石狩川にそそいでいました。しかし江戸時代後期の洪水で川が切れ、対雁（ついしかり）の方に流れが変わりました。残った旧札幌川を、「フシコ・サッポロ・ベツ」（古いサッポロ川）と呼んだことに由来します。

川の名称の由来



札幌の川には
アイヌ語に由来したものが
たくさんあるんだよ。

月寒川（つきさむがわ）【流域：豊平区、白石区】

周囲にチキサニ（ハルニレ）の木が生えており、この木片をこすって火を取るところ「チ・キサ・ブ」に由来しています。もとは「つきさぶつ」と読みましたが、第二次世界大戦中に難読を嫌った陸軍の要請で「つきさむ」に改められました。

厚別川（あつべつがわ）【流域：南区、清田区、白石区、厚別区、江別市】

周囲にかん木（かんぼく：背の低い木）が群生していたことから、「アシュベツ」（かん木の・群生する・川）と呼ばれるようになりました。またアシリベツの滝から上流になると呼び方が変わり、アシリベツ川（新しい川の意味）と呼ばれます。

野津幌川（のっぽろがわ）【流域：厚別区、北広島市、江別市】

開拓当時は原野の中を縫うように流れており、その様子から「ヌブ・オル・オ・ベツ」（野の中を流れる川）と呼ばれました。現在は河川改修によってほぼ直線化し、両岸にある緑地には遊歩道や健康遊具等が整備され、多くの人々に親しまれています。



山部川（やまべがわ）【流域：豊平区、清田区】

「ヤム・ベ」（冷たい川）が名前の由来とされています。語源の通り夏でも岩の間に氷がある所があり、水温は13度以上にはならないと言われています。また、夏・冬を通して水量が変わらず、ヤマメがたくさんいるきれいな川です。

トンネ川（とんねがわ）【流域：清田区】

ナラの木が群生していたため、「トンニ・ウシ・ナイ」（ナラの木が群生する川）と呼ばれました。この川より小さい、または左側にある小さい川として「ポントンネ川」（小さいトンネ川）、「ハルキポントンネ川」（左側の小さいトンネ川）があります。

アイヌ語の川の名前についての豆知識

ナイとベツがつく名前はなぜ多い？

札幌市だけに限らず、北海道にはナイ・ベツとつく川や地名が数多くあります。

◎アイヌ語で川を表す言葉 = nai（ナイ）や pet（ベツ）だからです。

例）真駒内川：マク・オマ・ナイ、うらうちない川：ウライ・ウシュ・ナイ、厚別川：アシュベツ
「内」のつく地名：稚内市、木古内町など。「別」のつく地名：江別市、登別市など。

名前でわかる大小の関係

名前から「これはどこの川の支流なのか」、知ることができます。

例）支流：望月寒川（もつきさむがわ）⇨本流：月寒川（つきさむがわ）
支流：ポンオカバルシ川⇨本流：オカバルシ川

◎mo（モ）や pon（ボン）…「小さい」という意味 ⇨ 「小さい」○○川 = ○○川の支流
「大きい」を表す、shi（シ）や pro（ポロ）という言葉もありますが、本・支流の関係を呼ぶ時、本流の方には言葉をつけないことが多いです。



精進川 (しょうじんがわ) 【流域：南区、豊平区】

川の終わり近くに滝があることから、川も土地の名も「オ・ソ・ウシ」(川尻に・滝がある・所)と呼ばれていました。それが「お精進」川となまって、現在のように呼ばれるようになりました。また土地の名は、川水が清澄(せいちょう)という事から澄川と改名されました。



真駒内川 (まこまないがわ) 【流域：南区】

空沼岳の北にある万計沼(ばんけいぬま)が水源で、山中で他の沢をいくつか合わせながら南区常盤・石山東を通り、真駒内で豊平川に合流します。この様子から、「マク・オマ・ナイ」(大川に向かって後ろの方(山の方)に流れていた川)と呼ばれるようになりました。

オカバルシ川 (おかぼるしがわ) 【流域：南区】

対岸の硬石山の川岸に、安山岩(火山岩の一種)の柱状節理(ちゅうじょうせつり)の露出が見られることから「オ・カバルシ」(川尻に平岩のあるところ)と呼ばれました。藤野の豊見山と藤野富士の間を北流し、藤野市街を通過して豊平川へそそいでいる川です。

簾舞川 (みすまいがわ) 【流域：南区】

空沼岳の北側を水源に、谷を刻んで北東に流れて豊平川に合流している川です。「ニセイ・オマップ」(峡谷にある川)というアイヌ語がなまって、「ミソマップ」となり現在の「みすまい」になりました。

琴似川 (ことにながわ) 【流域：中央区、西区、北区】

アイヌ時代には「ケネ・ウシ・ベツ」(はんの木・多くある・川)と呼ばれていました。現在の名前は、地名の琴似「コッ・ネ・イ」(窪地になっているもの)によるものだと考えられます。また十二軒川(家が十二あったから)とも呼ばれました。

上と下の呼び方

上側・下側を意味することばに、penke(ペンケ)とpanke(パンケ)があります。道内至るところでみられ、川の名前に限らず、沼や山の名前にもつけられています。

例)札幌市中央区盤渓地区:「パンケ=川下」が変化したもの。
十勝管内新得町:ペンケニコロベツ川・パンケニコロベツ川
釧路管内阿寒町:ペンクトー・パンクトー、上川管内中川町:ペンケ山・パンケ山

川の名前の由来

川の名前ひとつひとつに
いろいろな
意味があるんだね。



小別沢川 (こべつざわがわ) 【流域：西区】

藻岩山東山ろくを水源に、盤溪川の支流として流れています。名前は「クオ・ベツ」(仕掛け弓のある川)に由来し、狩猟の場であったようです。

三樽別川 (さんたるべつがわ) 【流域：手稲区】

手稲山山頂の北東から流れるこの川は、「サンタラッケ」(縄で鹿をしぼり荷おろしする所)に由来し名づけられました。昔はカジカやフドジョウのいる溪流で、付近の住宅の簡易水道水源として利用されていました。

アイヌ語以外の川の名前

新川 (しんかわ) 【流域：北区、西区、手稲区】

新しくつくられたことに由来します。発寒川を分断するように開削され、現在は琴似川と琴似発寒川の合流地点から下流が新川です。全国的にも同じ名前の川が多く、放水路等の人工河川であることが多いです。

左股川 (ひだりまたがわ) 【流域：中央区、西区】

琴似発寒川の支流であるこの川は、琴似発寒川の別名「右股川」に対して「左股川」と呼ばれました。両川の分岐点の地名は西野二股です。緑道公園や東屋(あずまや)などがあり、地元住民となじみの深い川です。

軽川 (かるがわ) 【流域：手稲区】

夏には水がなかったことから「涸れ川(かれ川)」と呼ばれ、それがなまって変化しました。アイヌ名は「トシリ・バ・オマ・ナイ」(墓の・上手に・ある・川)です。



赤坊川 (あかぼうがわ) 【流域：北区、東区】

この川は明治21(1888)年頃、苗穂刑務所の囚人たちが掘ったかんがい溝です。当時の囚人は赤い獄衣を着ていたため、人々に赤ん坊と呼ばれていました。このことから「赤坊川」の名前がつけました。

アイヌ語の川の名前についての豆知識

川にも部位がある?

アイヌの人たちは、川を人間同様の生きものと考えていました。ですので、人間と同じように川にも部位名があります。

例)水源→川の頭 pet-kitay(ペツ・キタイ)
曲がり角→ひじ sittok(シットク)
幾重にも曲がって流れるところ→脚 kankan(カンカン)

